

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる	その他専門店〔食品〕 （経営者）	・地元の荷動きも顕著に改善され、景気の回復が実感される。	
	やや良くなる	商店街（代表者）	・中小企業の業績は停滞し、個人消費はなかなか上向かないが、先行する大企業などの好況が伝えられているため、いずれ個人消費が上向く。	
		一般小売店〔医薬品〕 （経営者）	・新規の客が増えている。来客数、買上点数も増えている。	
		百貨店（売場担当）	・全館的に売上は好調であり、ベストセラーの商品は発注が追いつかない。客の動員も図られており、景気が上向いている。	
		コンビニ（エリア担当）	・競争は厳しいままで、5年ほど売上の前年割れが続いているが、そろそろ底を打って100%以上を目指す。	
		コンビニ（エリア担当）	・1年前、半年前と比べて景気は大分回復しており、悪くなる材料も特に見当たらない。	
		衣料品専門店（店長）	・ここ数年のなかでは一番ファッションに変化がある。スーツの色も、これまでの紺、ダークグレーなどのベーシックなものからライトグレーなど明るい色にも客の目が向くようになった。今持っているスーツが古く感じる、というファッション的な意味合いでの需要が喚起されている。	
		衣料品専門店（店長）	・価値と価格のバランスで商品を購入する客層に支持されている。商品に対してこだわりを持っている大人の男女の来客数が確実に増えてきている。	
		家電量販店（店長）	・新型ゲーム機、地上デジタル放送開始による大型テレビなどが期待される。	
		家電量販店（従業員）	・寒くなり季節商品が徐々に動き始めている。それに加え、AV関係の動きが年末に向けて活発になる。	
		乗用車販売店（経営者）	・目新しい商品がなく買い控えていた客が、各社の新型車イベントに刺激されて動き始めている。イベントは新年以降も続くので販売増加を期待する。	
		観光型ホテル（スタッフ）	・当温泉地も全国の状況と同じで長期低迷しているが、2軒の大きな旅館が相次いで大規模な改築を行った。設備投資総額は合わせて14億円程度で、これは中規模旅館の新築に匹敵する。このような思い切った投資は10数年ぶりであり、温泉街全体にプラスになる。	
		観光型旅館（経営者）	・度重なった列車事故の風評への影響については、地域をあげて、腰を据えて取り組むべき問題として、10月初旬には民間側から立ち上げたキャラバンを首都圏で実施した。自館のエステ、岩盤浴などの新しいサロンは順調に立ち上がっている。	
		タクシー運転手	・国際会議や学会などが多く開催されるなど明るい見通しがある。また、飲酒運転が問題になりタクシーを利用する人が増える。ただし、飲食業の従業員は客自体が少ないと言っている。年末のイベントもあるので期待できる。	
		通信会社（営業担当）	・市内の数か所で大型スーパーの建設があり、今後の景気回復を願いたい。	
		住宅販売会社（従業員）	・駆け込みで年内着工を望む客が多く、前年比10%程度受注量が増加する。	
		変わらない	一般小売店〔書籍〕 （経営者）	・年末年始は大商いが、自社新規店の売上げが期待できる一方、730坪という北東北では超大型の競合店が12月に新店出店する影響についての懸念もある。
			一般小売店〔雑貨〕 （企画担当）	・原油を始めとして素材価格が上昇したことによって、店舗で販売する商品の単価も下げ止まる、しかし、上昇する状況において、販売数量が増加することはない。
			百貨店（売場主任）	・地域においては企業業績も改善されておらず、冬のボーナスも期待できない。
			百貨店（広報担当）	・歳末商戦、冬のセールと続く書き入れ時だが、個人、法人とも業種業態による差異が拡大している。結果、二局化の流れのなかでボリュームゾーンである中間層の消費行動が依然慎重さを抜けきれない。
百貨店（経営者）	・新聞などの報道では景気が良くなっているというが、個人の所得は増えているという実感はない。一部に個人所得が上がるという話も聞くが全体的なものではなく、客の購買の仕方も変わらない。			

	スーパー（経営者）	・原油高影響などで一品単価が若干上昇しているが、買上点数は堅調に推移している。
	スーパー（経営者）	・今ごろは新米、かき、ラフランスなどの農産物が期待される時期であるが、米の値段は上がらず、かきも大したことはない。農家の状況が改善されないため、現状と変わらない。
	スーパー（経営者）	・地域に特に好調な産業があるわけではなく楽観できない。客の消費動向は堅実であり、節約志向が続いていることから、これからの状況が好転する期待は持てない。寒い時期になるので、灯油の価格推移も微妙に影響する。
	スーパー（店長）	・冬に向けて、ガソリン、灯油が高値安定しているため、客の購買力に影響するおそれがある。
	スーパー（総務担当）	・有効求人倍率が地方でも高くなっているが、各個人の所得は上がっていない。地方では景気が良くなっているという話はまだ聞かれない。コスト高も原油高とあいまって続く。
	スーパー（企画担当）	・現在の厳しい状況の最大の要因は競合の激化であるが、この傾向はしばらく変わらない。
	コンビニ（エリア担当）	・夏の暑さで瞬間的に好転するという例はあるが、競合店の増加もあり、長いスパンで見ると売上が低迷した状態がここ数年来続いている。大企業に勤めている人は収入も良いが、地域の客の大部分は中小企業に勤めている人であり、売上の改善は見込めない。
	衣料品専門店（経営者）	・地方の中小企業の回復にはまだまだ時間が掛かる。政府の行財政改革に期待する。
	衣料品専門店（店長）	・急に寒くなったことやダイレクトメールの効果で現状の来客数は増えたが、スーツの需要自体が増えているわけではないので、景気が上向くとは限らない。
	乗用車販売店（経営者）	・新型車投入により需要が喚起され、一時的には販売増になることもあるが、最近は新型車効果の期間も短くなっており、2、3か月後は前年並みで推移する。
	乗用車販売店（従業員）	・時期的にも販売数が増える環境になく、しばらく我慢が続く。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・今冬の寒さが状況を大きく左右する。原油価格の動向より11月の卸価格は下がるため、販売価格の市況は低下傾向が続く。販売量が回復しなければ価格競争が激しくなり、粗利益が減少する状況が続く。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・石油の価格が下がってきているものの、客の財布のひもの固さは変わらない。
	一般レストラン（経営者）	・景気の拡大が長く続いていると発表されているが、全く実体はない。今後も地域では不景気の状態が続き、レストランに客は来ない。
	観光型旅館（経営者）	・忘年会の予約や、グループでの宿泊は前年12月から激減しており、予約状況を見るとその傾向は変わっていない。県内の客は相変わらず低調であり、この状況が良くも悪くも変わる兆候はみられない。
	都市型ホテル（スタッフ）	・良い材料が身の回りに見当たらず、また、景気が良くなる雰囲気も感じられない。よって、ホテルを利用する人が急激に増えるとは考えられない。観光客と大会に頼っている状況は、今とあまり変わらない。
	都市型ホテル（スタッフ）	・駅直結で300室を有する稼働率80%の大手チェーンホテルが来年3月に撤退すると発表した。設備投資をしても回収が困難と判断したようだ。政令指定都市決定の知らせにも期待感は薄い。
	都市型ホテル（スタッフ）	・予約数は例年以上の数を確保できるが、競合他社との関係で全体の売上は例年並みとなる。
	通信会社（営業担当）	・明るい話題がない。来年の国体に向けて動きが出てくると思うが、2、3か月先では大きな変化はない。
	テーマパーク（職員）	・現在マスコミで注目を浴びているため、集客効果、及びイメージアップによる消費単価増は継続する。
	遊園地（経営者）	・暖冬という長期予報であり、人の動きが活発化する期待がある一方で、灯油の値上がりによる家計負担増の懸念もある。
	美容室（経営者）	・報道によると景気回復している分野、企業もあるようだが、当地域では所得に反映するような景気回復の話が聞かれない。ボーナス商戦で跳ね上がる、ということは難しい。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・郊外大型店オープンに対抗した集客セールも徐々に息切れし、売上高はマイナスをたどる。

		百貨店（販促担当）	・ウォームビズの関連商材の提案も、クールビズ同様2年目でインパクトを欠き、この冬のトレンドは基本的に前年と変わらない。歳暮商戦も苦戦する。
		スーパー（経営者）	・年末商戦に向けて競争が激化する。また、魚などを中心に納入単価が上昇している。
		スーパー（店長）	・9月に最大手のショッピングセンターが開店し影響を受けているところに、10月には県内スーパーが市内に2店舗目を出店させた。さらに、12月には県外スーパーの大型店がオープンする予定もあり競争が激化している。連日チラシ特売を仕掛けているような状況である。
		コンビニ（経営者）	・年末に向けて大型商品が相次いで登場するが、年賀状は毎年減少傾向にあり、ボージョレーヌーボーは競争が激化しているため、現状では苦戦が予想される。落ち込んでいる米飯の回復がなければ前年割れとなるため、夜間の米飯の動きに注目して改善していきたい。
		衣料品専門店（経営者）	・暖冬の予報であり、防寒着など冬物の売行きは悪くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・この時期での客足からすると、年末の駆け込み、年始の初売りも多くは見込めない。
		その他専門店〔呉服〕（経営者）	・地元では米の収穫量は良かったが、価格が安くなり減収になった、と農家の客は言っている。寒くなり来客数も減少する。
		その他専門店〔靴〕（経営者）	・冬期は雪がいつ降るかによって売上が大きく変わってくるが、暖冬との予報であり先行き不安である。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・本来ならば忘年会シーズンに向けて慌ただしい時期に入るが、酒気帯び運転の取締り強化により飲食店等も対策に追われるため、酒類の消費量は減少傾向にある。
		都市型ホテル（経営者）	・出直し知事選挙の影響かもしれないが、例年12月に利用しているリピーターの出足が非常に鈍い。汚職事件により県内全体が落ち込んでいるため、2、3か月先の景気は改善されない。
		観光名所（職員）	・11月の予約状況が前年同期と比較して伸び悩んでいる。今後は期待できる大きなイベントもなく、このままだとやや悪くなる。
	悪くなる	コンビニ（経営者）	・建設業は公共工事が激減して苦しんでいる。農家は米が不作であった。これらのことから、この先1年間は確実に悪くなる。
		衣料品専門店（店長）	・冬本番となり、暖房などの光熱費や、除雪費用が掛かるため、売上は鈍化する。
		一般レストラン（経営者）	・年末の予約がちらほら入る時期にもかかわらず、まだ入ってこない。同業者も同じようである。年末はそれなりに忙しくなるだろうが、あまり期待できない。
企業動向関連	良くなる	広告代理店（営業担当）	・10月24日に番号ポータビリティ制度が始まり、携帯電話市場に本年最大の動きが出ている。
	やや良くなる	農林水産業（従業者）	・これから出荷するりんごは天候に恵まれ品質も良いことから、販売単価に期待が持てる。
		輸送業（経営者）	・燃料の軽油価格が下がると予想され、そのまま運輸業の収益向上につながる。
		広告業協会（役員）	・仙台圏における今後の再開発はホテル、ショッピングセンター、高層マンション、スポーツ施設など、広告業界にとっては期待できる明るい話題が多い。
		広告代理店（従業者）	・不動産、観光関係の仕事は順調に推移している。今後、統一地方選挙の動きも更に活発になる。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・日本酒の消費は年末にピークを迎える。ここまでの状況から判断すると、前年クリアは間違いない。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	・来月からお歳暮の販売が始まるが、良くなりそうにはない。
食料品製造業（経理担当）		・燃料価格は落ち着いてきたが、包装材料は値上がりしている。また、年末を迎えアルバイト単価も上昇し労務費のアップは避けられない。受注は横ばいと予測するが、収益は好転しない。	
一般機械器具製造業（経理担当）		・自動車用部品は好調を持続できるが、携帯電話用の部品が大幅に減少するとの予測が出ている。	
	輸送業（従業者）	・次世代ゲーム機の輸出取扱の商談はきているものの、かなりのダンピングを要求されている模様である。11月は例年通りボージョレーヌーボーの取扱がある。	

	新聞販売店 [広告] (店主)	・報道では景気が回復しているというが、集金先の家庭や自営業者などの会話では、「それはどこの話だろう」「やりくりが大変だ」というものが多い。折り込みチラシが盛り返してきたが、もう少し様子をみないと景気が良くなっていると判断することはできない。	
	経営コンサルタント	・規模間格差と地域間格差の両面を被る小規模企業の苦戦が続く。	
	公認会計士	・いざなぎ景気を超えるというが、一向に実感を伴わない。	
やや悪くなる	農林水産業 (従業者)	・米価が下落し続け、上向き気配がない。	
	出版・印刷・同関連産業 (経理担当)	・県内は建設業の談合事件の影響もあり、心理的にも落ち込んでいる。この先もじわじわ悪くなる。冬のボーナス支給に期待したい。	
	電気機械器具製造業 (経営者)	・上期は順調に製造ラインが稼動したが、下期は上期比で80%程度の受注量と予測している。取引先からは一段とコストダウンの要求があり、利益率が軒並みダウンする懸念がある。	
	通信業 (営業担当)	・下期以降の受注見通しはいまだ立っておらず予断を許さない。対応案件はそれなりにあるものの、利益率が下がってきている近況から不採算案件の区別をつけながら受注する必要があり、地域事業者としては対応に苦慮することになる。	
	悪くなる	-	
雇用 関連	良くなる	職業安定所 (職員)	・建設業の求人は微減であるが、サービス業が派遣求人を中心に前年同月比35%程度の増加と大幅に伸び、全体を押し上げている。
	やや良くなる	人材派遣会社 (社員)	・来春に向けての商談が結構出てきている。それが当社で成立するか否かは別として、求人需要は堅調である。
		新聞社 [求人広告] (担当者)	・メディア、チラシ、フリーペーパーなどの求人媒体を扱う首都圏企業の仙台圏への進出が見込まれている。業界にとっては脅威だが、マーケット全体としては求人数の増加が見込まれているということである。
	変わらない	人材派遣会社 (社員)	・新卒の確保が済み、春までは様子見の意向が強いいため、スポットでの求人はあっても長期の事務職はそれほど増えない。
		新聞社 [求人広告] (担当者)	・地元の求人広告も若干増えているが、内容は飲食店のパート、アルバイトやタクシー運転手などが多くなっている。
		職業安定所 (職員)	・求人は多くなっているが、正社員募集は3割程度で、他は非正規社員募集の求人が多く、改善されていない。
		職業安定所 (職員)	・求人数とともに求職数も減少しているため有効求人倍率は上昇したが、その水準は全国でも最下位で、低レベルのまま推移している。
	やや悪くなる	職業安定所 (職員)	・新潟中越地震の復旧工事はほとんどが今年度末で終了する。降雪地では降雪前の12月に終了する事業もあることから、建設業などでの人員削減が懸念される。
	悪くなる		